さいたま市障害者社会参加推進センターだより

ぷらネット

第42号

令和4年度さいたま市

障害者週間 市民のつどい

みんなちがってみんないい

ーコロナ禍 3年ぶりに通常開催ー

12月３日（土）　午前10時～午後３時
プラザノース、市民広場、きたまちしましま公園、ステラタウンメローペ広場

基調講演　金澤泰子さんによる講演
　　金澤翔子さんによる席上揮毫

市民のつどい 実行委員長あいさつ

実行委員長　中野　勇

さいたま市「障害者週間」市民のつどいは12月3日、開催されました。北区のプラザノースにメイン会場を移しての開催でした。これまでと大きく変わったところは、プラザノース（ホール、ギャラリー、市民広場）を中心に、隣接する「きたまちしましま公園」、商業施設ステラタウンのメローペ広場といった広いエリアを会場としたことでした。

プラザノース1階ホールで式典、基調講演、演奏会。2階多目的ホールでは、パラスポーツ体験。

ギャラリーでは各団体の障害について理解を深める展示・作品展などが行われました。メローペ広場ではふれあいステージが行われました。

当日は天気も良く、多くの方々とさまざまな形でコミュニケーションを図ることができました。

これまでとは比べられない広い会場での開催。不慣れなことや戸惑いから十分な準備ができたかなどの課題は残りましたが、今年のサブテーマ「みんなちがってみんないい」を多くの方に発信できたと思います。

特に、基調講演では『ダウン症の娘と共に生きて』と題して、書家・金澤翔子さんのお母さまの金澤泰子さんによる講演と、翔子さんによる席上揮毫（きごう）〈実際に書を実演する〉でした。

講演では、お母様の子育てや生き方への思い、翔子さんの自然体の生き方や強い意志について語られたこと。そして翔子さんの書かれた力強い「共に生きる」の五文字が強く印象に残りました。

さいたま市には、ほかの自治体に誇れる「ノーマライゼーション条例」があります。障害者の社会参加を進め、広く市民への理解を図るべく、今後もこの市民のつどいを積極的に担っていきたいと思います。

参加された皆さま、当日、関心を寄せてくださった多くの方々、そして、実行委員を中心とする関係者の皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ノーマライゼーション条例

さいたま市では、２０１１年、全国の政令指定都市に先駆けて「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」を制定しました。

この条例は障害がある人もない人も、安心して生活できる地域社会を目指すもので、障害のある人が地域の一員としてさまざまな活動ができるまちづくりを目指しています。

市長も卓球バレー体験

市民のつどいには清水市長に出席していただき、式典の表彰だけではなく、その後、多目的体験コーナーでは卓球バレー体験。市民広場の物品販売コーナーなどをご覧になり、買い物もしてもらいました。

市長の市民に寄り添う姿勢が垣間見られて感動しました。

写真は市長と記念写真を撮らせていただいたときのものです。

卓球バレーを楽しむ市長

さいたま市選手団の報告会・解団式

第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」のさいたま市選手団の報告会および解団式が行われました。

選手団団長の渡辺浩二氏から、選手の皆さんが日ごろの練習成果を発揮して、金９個、銀６個、銅７個のメダルを獲得したとの報告がありした。

その後、さいたま市選手団団旗の返還式があり、旗手の熱田笙馬選手から清水市長に返還されました。

同選手団は、「いちご一会とちぎ大会」（10月29日―31日）に参加。３日間の日程で各競技が行われました。選手たちは全力で競技に取り組み、素晴らしい成績を残すことができました。また、サポートをしていただいたスタッフ・ボランティアの方々と交流を深め、たくさんの思い出をつくりました。

選手の皆さん、とちぎ大会での経験を生かし、なお一層の飛躍ができるよう願っております。

（渡辺浩二）

ホールスケジュール

10:00～　式典開始（入場自由）

・主催者挨拶

・心の輪を広げる体験作文
　障害者週間ポスター
　さいたま市最優秀賞表彰

・第22回全国障害者スポーツ大会
　さいたま市選手団
　報告会及び解団式

〈演奏会〉

12:30～　演奏会

【植竹中学校】

〈基調講演〉

13:45～基調講演（事前申込制）

「ダウン症の娘と共に生きて」

・金澤翔子さんによる席上揮毫

・金澤泰子さんによる講演

ギター演奏会を聴いて

さいたま市立植竹中学校ギター部による演奏会が開催されました。１・２年生にとっては初舞台となる演奏会。日ごろの成果を披露していただきました。

オープニングの『小さな恋のうた』は、〈あなたにだけ届いて欲しい響け恋の歌〉という歌詞で、青春の希望・未来・淡い恋心を表現。『パリテションオラージュ』は繊細さと悲しさを表現した美しいメロディーで、強弱が激しく嵐の後の静けさが伝わってきました。『千本桜』はボーカルに音声合成ソフト「初音ミク」を使用してインターネット上で公開した楽曲であり、ギター特有の迫力がありました。『スパニッシュコーヒー』はギターアンサンブル・合奏での定番曲。演奏中にカスタネット・手拍子・掛け声が入り、聴いている人が元気になれる明るい曲。最後は、葉加瀬太郎作曲の『情熱大陸』。テレビドキュメンタリー番組の主題歌であり、会場の皆さまにはおなじみの曲。ハンカチを振る演出もあり、演奏のテンポも良く癒しを与えて貰いました。

同校ギター部は、「全国学校ギター合奏コンクール２０２２」（10月開催）で、特別金賞を受賞した実力校です。技術に磨きをかけ、心を一つに演奏し、実力をしっかりと発揮できました。これからも目標に向かって精進し、観客を楽しませてください。

（鈴木）

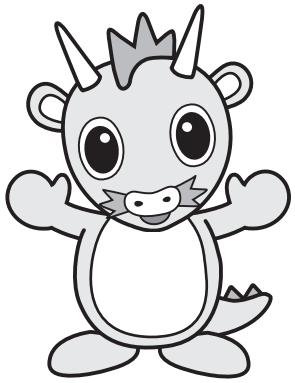
の数々

が未来をつくる

多目的ルーム体験コーナー

卓球バレー体験
車いすスラローム体験

**障害のある人とない人が
混ざりあうスポーツ**



障害者が作る素敵な商品

ふれあいステージ
ステラタウンメローペ広場

NPO 法人織の音アート・福祉協会
一般社団法人とまりぎ
福祉型障害児入所施設 久美学園
株式会社キュアラボ スマイルリズム
ありがとう生活介護事業所・放課後等
ディサービスときめきスクールありがとう
埼玉福祉事業協会
社会福祉法人ハッピーネットゆめの園
みらいず大宮児童発達支援・放課後ディサービス
放課後ディサービス夢組ドリームクラス
ＮＰＯ法人みんなの風福祉会風の子クラブ

共に生きる社会

市民広場
きたまちしましま体験コーナー

ボールプール
フライングディスク
音楽に合わせて
　体を動かすムーブメント
大宮アルディージャ
　手話応援コーナー
ボッチャ

令和４年度基調講演・席上揮毫

ダウン症の娘と共に生きて

講師　金澤 泰子氏

令和４年度のさいたま市「障害者週間」市民のつどいで、金澤泰子・翔子さん母娘による講演会が開催されました。観客は、ダウン症の書家・金澤翔子さんの席上揮毫に感動しました。

スクリーンに映し出された『共に生きる』。壇上で大きな筆で文字を書いた躍動感に溢れた作品。翔子さんはダウン症というハンデを抱えながらも生命力があり、力強く感じる書を書き続けています。

「こんにちは金澤翔子です。一人暮らし８年です」とあいさつしました。

基調講演で泰子氏は、高齢出産で40過ぎに授かり、50日目に医師から「ダウン症」と告知されました。世間体もあり、母子ともに生きていられないと思う絶望感がありました。保育園に預けて、厳しいが良い先生に恵まれました。クラスが和やかになり、落ち着くと言われました。

当時はゆとり教育の時代で、書道教室を始め、友達も出来ていじめられることもなく、小学３年までは幸せを感じていました。４年生進級時、学校から養護学校への転向を進められ途方に暮れました。友達も来なくなり、とてもこの現状を認めたくない。私は家に引きこもり状態となり、無謀と思ったが、翔子に２７６文字の「般若心経」を書かせた。教えるのは難しかった。翔子は「やりたくない」「嫌だ」とは言わなかった。翔子が苦しんでいないことも分かりました。主人が亡くなり、７歳下の妹も亡くなりました。主人は生前、翔子の書を認めており、「20歳になったら個展を開き、ダウン症を公表しよう」と話していました。

画廊で初個展

翔子が20歳のとき、銀座画廊で個展を開催。このことがメディアに取り上げられて大成功。個展をやらなければ、成功はなかったと思います。頑張れば活路が見いだせると感じました。「死のうと思ったが、翔子さんの書を見て生きようと思った」と手紙を書いて送ってくれた人がおり、そのような内容の人も多くいました。

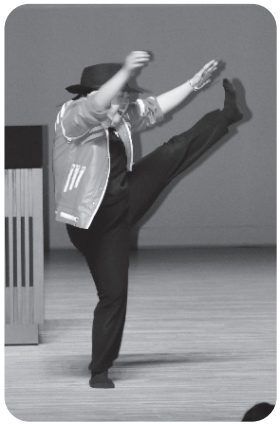
なぜそのような力があるのか。繰り上げも理解できないし、数の計算もできない。しかし、他の知性・感性が育ちました。頑張れば活路が見いだせると思いました。学歴社会には入っていないので、競

争心がなく、良い学校に行こうとは思わなかった。いつもニコニコして、明日のことを考えたりしません。これは大切な力。社会のことは良く分からないし、お金の存在を知っていても金持ちになろうとする欲望もありません。

これは素晴らしいこと。皆に喜んで欲しいだけ。「人生は長いです。20歳くらいで人生を諦めることはない。良い悪いに惑わされず生きてほしい」。

絵が書になった

建仁寺の住職さんから依頼された『風神雷神』。私は自由に書きなさいと言った。右肩下がりで、絵は翔子の文字と位置が同じ。私はその書に驚きました。



［京都の建仁寺に国宝・俵屋宗達の「風神雷神」屏風があり、翔子さんの「風神雷神」の書が並んで納められています。大河ドラマ「平清盛」の題字。日本各地の社寺で揮毫・奉納・個展も行っています」

翔子が30歳のとき、ＮＹ国連本部で開催の「世界ダウン症の日記念会議」（２０１５年３月）で日本代表に選ばれました。亡き妹の白い振袖姿でスピーチをしました。

一人暮らしを始めて

30歳から一人暮らしを始めて８年。「翔子行ってらっしゃい」と言うと「お母さん、さよならでしょう」と言われました。毎日、食事を作っており、部屋も整頓している。お金のことは分からないので、スーパーでの買い物はしていません。町内の人たちは、翔子のことを理解しており、商店で買い物をします。ゴミ出しも知りません。お隣の人が親切に教えてくれます。歌も歌えるようになり、音程も出てきました。

30年前の日記に「私は世界で一番悲しい母親です」と書きました。『生きてさえいれば絶望はない』を最後の言葉にしたいと思います。

マイケル・ジャクソンの軽快な曲に合わせ、翔子さんにリズム感あふれる踊りを披露していただきました。

今年５月、ドキュメンタリー映画『書家金澤翔子共に生きる』が劇場公開予定です。

（鈴木）

障害がある人もない人も共に生きる社会を目指して
市民のつどい実行委員会リレートーク

盲導犬とわたし

市民のつどいは、12月で寒いかと身構えていましたが、暖かい一日でした。式典参加とビラ配り以外はほとんど自分の会のブースに居ました。そこで隣り合わせのロービジョンラボに可愛い生きものを発見しました。そう、盲導犬です。ラブラドールだったでしょうか。大人しく座っていました。私は興味津々で犬をチラ見していました。あわよくば犬と一緒に写真を撮りたいなどともくろんでいました。

市民のつどいが始まって中盤に差し掛かるころ、チャンスはやってきました。ロービジョンラボの方に、「犬と写真を撮っていいですか？」と聞くと、快諾してくれました。特別に触ってもいいとまで言うではないですか。原則として盲導犬に飼い主以外が触るのはご法度です。盲導犬は大切な仕事をしているからだと思います。しかし、今回はスキンシップの許可が下りました。

最初の写真は犬にそっぽを向かれ失敗…。再チャレンジの２枚目は犬が私の手のひらに鼻を押し付けてくれ、大成功。とても賢い犬は私のことを憐れんで協力してくれたのかもしれません。

盲導犬は、過酷な仕事ゆえ短命に終わると誰かに聞きました。人間のため尽くす盲導犬は視覚障害者のかけがえのないパートナーであると同時に、希望を与えてくれます。可愛い盲導犬はその後、「元気にお仕事に励んでいるでしょうか？」

（竹内）

令和４年度市民のつどい実行委員

編集後記

「みんなちがってみんないい」は、金子みすゞさんの詩「わたしと小鳥とすずと」の一節です。

－わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、とべる小鳥はわたしのように、地面をはやくは走れない。わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、あの鳴るすずはわたしのように、たくさんなうたは知らないよ。すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい－

◆さいたま市の小学校では、五年生の国語で、この詩の学習をするそうです。みすゞさんは、この世に存在する全てのものがそれぞれ違うから素晴らしく、一人一人違うからこそ大切で素敵なのだと詩っています◆市民のつどいの目標である「共生社会」実現に向けて、未来を担う子供たちが、みすゞさんの深い優しいまなざしを学ぶことに暖かい春の陽射しのような希望が感じられます。

（泉）

発行　さいたま市障害者社会参加推進センター
〒三三〇-〇八〇一
さいたま市大宮区土手町一-二一三-一
大宮ふれあい福祉センター４F
TEL ○四八-六五三-七二七一
FAX ○四八-六五三-七三四一
http://www.saitama-planet.com/
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp
発行・編集人　中野　勇